

古いものと新しいものが一緒に育む札幌

◆FC(フィルム・コミッション)を積極的に活用しよう！

[経済・雇用の側面から]

経済効果 ・直接的な宿泊、飲食、各種レンタル、機材、人材雇用

・間接的には、フィルムツーリズム(ロケ地観光)や関連産業の振興

※スタッフさえいれば、新しいハコものを作る必要なく、いろんな効果を期待できる可能性がある。

※ドイツの映画基金の例

大都市が集中するノルトライン・ウェストファーレン州の基金

「良質な映画製作を誘致し、地元の雇用を創出する」

・映画(TV含む)の製作上映に対する費用の一部を無利子で融資

・その融資額に対して、150%以上の額を州内で使うことが条件

※札幌市が推進するIT産業と様々な側面においてリンクする可能性が高い

→特にポストプロ作業(編集・仕上げ作業)

[共生・地域づくりの側面から]

地域の魅力の再発見

FCのロケ地探しは、地域の建物や景観の再発見、魅力ある人材の発掘、それをネットワークしていくことのコミュニティ作りに役立つ

※コンベンション誘致は、経済効果はあるものの、地域とのつながりは、薄いのではないかと思います。

[環境・都市機能の側面から]

新しいものを建てるのではなく、今ある、北海道の豊かな財産、景観・建物を守り、育てていくことがロケ資源—ロケ地の魅力につながっていく。

※北海道遺産を一つの例として、市民と行政と一緒にロケ資源を保存・活用していくことが重要になります。

[文化・人づくりの側面から]

・地域文化の向上

FCは映像文化の振興にとどまらず、地域の文化向上に役立ちます。様々な文化資源を保存し、集積することは、国際文化都市札幌を形成していきます。そして、地域を映像として、全国や世界に発信させ、多くの人材を育てていくことと思います。

静かな大地に育む札幌

◆子孫のために、100年後を考えたまちづくりを！

阿部さんの第2回分科会での提案は、まさに、この会議のビジョンそのものだと思います。どのような観点からも、21世紀は自然と共生する英知をもたなければ、崩壊するであろうことは目に見えています。この会議は、3年間の重点政策を議論し、提案することにあります。私たちの子孫のためには、阿部さんが語るようなビジョンが必要だと思います。そして、またその先住民族の考えから提案された具体例は、4つの分科会で議論されていることと、見事につながっていると思います。例えば、

- ・木を切らない→まちの中に森を
川の復活→河川の護岸を自然に戻し、川にふさわしい木を植えよう
- ・電柱を地中に埋めよう、広告を規制しよう、自転車の事故を減らすため、交通規制を。駐車違反をより強化しよう。
- ・北海道の地形、自然環境、歴史、生活についての情報を子供たちに伝える→アイヌ語地名を日本名に並記
- ・アイヌの伝統的な文化の普及→多民族国家、多文化共生の国を市民に伝える
- ・公共教育の場で総合的にアイヌ文化の学習をすすめる

◆札幌市立大学に先住民族学科の設立を！

このビジョンに基づいた大きな政策として、今度設立される札幌市立大学に、21世紀の英知を求める先住民族学科の設立を進めたいと思います。

- ・世界でもまだ数少ないであろうこの学科は、世界の英知から注目されるでしょう。そして、世界から最も留学生が集う大学の一つとなるでしょう。それは国連の世界先住民族年の10年を踏まえ、国際交流都市札幌の名を必ずや高めることになるかと確信します。